

平成28年度 宮城県教育委員会 志教育支援事業（推進地区指定）

宮崎中学校区「事例発表会」

# 実践事例集

《ふるさと宮崎に学び 自分のよさに気づき 未来へ踏みだそう》



志教育支援事業

宮崎中学校区連絡協議会

# ～目 次～

あいさつ 加美町教育委員会 教育長 早 坂 家 一  
志教育支援事業 宮崎中学校区連絡協議会 会長 稲 田 壽

I	志教育の推進について	
1	推進の概要	1
2	宮崎中学校区の志教育の推進全体構想図	3
3	宮崎中学校区小・中連携事業年間計画	4
4	実践の成果と今後の課題	
II	各校の志教育の実践の様子	
1	宮崎小学校	6
2	賀美石小学校	8
3	旭小学校	10
4	宮崎中学校	12
5	中新田高等学校	14
III	志教育連携事業の実践	
1	小・小連携	15
2	小・中連携	17
3	中・高連携	19

## 発行のあいさつ

加美町教育委員会 教育長 早坂 家一

宮崎中学校区（小学校3校，中学校1校，高校1校）は，平成28年度に宮城県教育委員会から志教育支援事業推進地区の指定を受け，研究に取り組んで参りました。

改めて「志教育」とは小・中・高等学校の全時期を通して，人や社会と関わる中で社会性や勤労観を養い，集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら，将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく教育です。

加美町教育基本方針の重点事項の一つに，小中高校間や地域との連携による交流活動の推進を掲げています。この重点努力事項と「みやぎの志教育プラン」のもとに，小中高の連携，更には学校・家庭・地域との連携を図りながら，各学校は「志教育」に取り組んで参りました。

児童生徒が主体的に確かな学力を身に付けるためには，現在の学びと社会とのつながりから学ぶことの意義を認識させることが重要です。このことを踏まえ，町の方針をしっかりと意識して，各学校が実践を重ねられたことをうれしく思います。

宮崎中学校区の主な取組として，8月に実施した「夏の学校」では，3つの小学校の6年生が宮崎中学校に一堂に会し，中学校の理科の授業や部活動を体験したり，中学生による学校生活の説明を受ける等，交流活動を行いました。参加した子どもたちは，中学生に対して憧れを持ち，また自分が中学校に入った時の目標を見付けるきっかけができたのではないかと思います。また中学生は，自分たちの後輩が入ってくるということで，小学生に対する思いやりの気持ちが一層芽生えてきて，本事業のねらいが達成できていることを実感しております。

また中高交流では，宮崎中学校の卒業生で中新田高校の生徒による高校生活と進路についての交流活動を行い，中学生は自分の夢の実現に向けて邁進している高校生に対する尊敬の思い，高校生は自分の経験を中学校の後輩に伝えることで，充実感を得られたことと思います。

小小交流会は3回に分けて，低学年が旭小学校で，中学年が宮崎小学校で，高学年が賀美石小学校と学年毎に3校で実施し，「お互いを知ろう」「学校や地域のよさを伝え合う」等のテーマのもと，グループ活動や自分たちの地域の歴史や伝統，そして自分たちが取り組んできたことを紹介し合いました。この交流で，自分の夢を自信を持って発表し，お互いの良さを認め合い，自分の通う小学校区以外の地区の良さを知り，ふるさとに誇りをもてる大人に育てられることを期待します。

これらの取り組みを，児童生徒一人一人が体験したときの思いや感動を大切に，宮崎中学校区の地域性を踏まえながら，「志教育」の三つの柱である「人と『かかわる』，よりよい生き方を『もとめる』，社会での役割を『はたす』」ことの視点を加え，ここに「志教育実践事例集」としてまとめました。まだまだ不十分な点や課題も多くありますが，この研究が今後の各校の取組に少しでも参考になればと思います。また，保護者の皆様には，親子で将来の夢，目標や生き方について語り合うための材料にいただければ幸いです。

最後になりましたが，全面的にご指導とご支援をいただきました宮城県教育委員会・北部教育事務所の先生方，更には多くの時間を割いて本事業にご尽力いただきました先生方に心から感謝申し上げます，発行にあたってのあいさつといたします。

## あ い さ つ

### 志教育支援事業宮崎中学校区連絡協議会 会 長 稲 田 壽（宮崎中学校長）

本年度、宮崎中学校区は宮城県教育委員会より「志支援事業」の推進地区指定を受け、賀美石小学校、宮崎小学校、旭小学校、宮城県中新田高等学校、宮崎中学校が連携し本事業に取り組みました。

本事業を行う上で、改めて現行の連携のあり方として「小・小」「小・中」「中・高」「学校・地域」について再考する時間を持つことができました。一つ一つの事業の目的、活動内容、評価などについて、これでいいのかと教職員はそのつど考えを深めるきっかけとなりました。

事業を実施するうえで

- ①児童生徒一人一人が加美町（宮崎地区）を構成する一員として存在意義が明確になる事業であること。
- ②教科の一環として位置付ける。

キャリア教育の一環として「志教育」を全ての教科の一環として位置付けることで「志教育」の推進と「志探求」の場の拡大と深化と定着が期待できると考えました。

本事業の収穫として、児童・生徒の地域に対しての理解が深まったことが挙げられます。地域に育まれている「安心感」「感謝の気持ち」の向上は、郷土愛の向上につながり、より宮崎の地に対しての興味関心を高める時間となりました。地域の方に支えられ、自分自身の現在の課題と将来の夢を多くの場面で考えました。

### 【加美町憲章】

「夢 海をめぐり 愛 ふるさとに帰る

鮎の凜冽 川よ語れ」

さらに、小中高の交流や活動を通して、「自分を見つめる」「自分を知る」「自分はどのような中学生・高校生・大人になりたいか」を主体的に考えるようになりました。簡単に言い換えるのであれば、小学校から高校までの間に人や社会とかかわることで、社会性や勤労観を培い、組織や社会の中で一人の人間としての責任や役割を学び社会人になったとき、よりよい生き方ができるような実践ができました。

このたび、実践の核となる事業の事例発表を行います。児童生徒の発表や活動の様子、私たちの実践のあり方をご覧いただき、ご参会の皆様から忌憚のないご意見・ご助言を賜り、今後の志教育を含めた教育実践の一層の工夫と改善につなげたいと思います。また、ご参会の皆様にとって、この事例発表会が有意義で明日の実践に役立つものであればと願っております。

結びになりますが、これまでご指導・ご支援を賜りました宮城県教育委員会並びに北部教育事務所の先生方、そして加美町教育委員会の皆様に心から感謝と御礼を申し上げますとともに、今後もなお一層のご指導・ご助言をお願い申し上げます。あいさつといたします。

# I 志教育の推進について

## 1 推進の概要

## 2 宮崎中学校区の志教育の推進全体構想図

## 3 宮崎中学校区小・中連携事業年間計画

## 4 実践の成果と今後の課題

# テーマ「ふるさと宮崎に学び 自分のよさに気づき 未来へ踏みだそう」

**目 標** 地区内の小・中学校が家庭及び地域・高等学校とかかわる中で、望ましい社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えながら、よりよい生き方を進んで求めていく児童・生徒を育成する。

## 1 本事業について

高度情報化や経済活動のグローバル化の一層の進展により、これからの社会は、これまで以上に変化の激しいものになることが見込まれる。そうした変化の中でたくましく生き抜いていけるよう、必要な知識・技能を確実に身に付けるとともに、自らの適性を的確に把握し、社会の中で自らが果たすべき役割を将来にわたって展望し、その実現に向けて強い意志を持って自律的に行動できる人づくりを進めることが求められる。

そこで、小・中・高等学校の全時期を通じて、人や社会とかかわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく志教育を推進し、県内各小・中・高等学校及び特別支援学校に普及する。(宮城県教育委員会 志教育支援事業実施要綱より)

## 2 指定期間

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで(1年間)

## 3 具体的な事業の内容

- (1) 推進地区連絡協議会及び志教育担当者会を設置し、運営する。
- (2) 実践目標、実施方針、全体計画を作成する。
- (3) 家庭及び地域、小・中・高と連携した事業を検討し、実施する。
- (4) 各校種の取組についての情報交換をする。
- (5) 各教科・領域における授業を実践する。
- (6) 事例発表会を実施する。
- (7) 実践事例集及びリーフレットを作成する。

## 4 宮崎中学校区の概要

宮崎地区は宮城県の北西部に位置し、学区内を鳴瀬川の支流、田川が貫流している。稲作を中心とする三世代家族が多い農業地域である。文化面では東北最古の磁器「切込焼き」で知られ、「陶芸の里」や温泉施設「ゆ〜らんど」等のふるさとづくり、スポーツ振興では「陶芸の里運動公園」の整備など、静と動とが調和した地域づくりに積極的に取り組んでいる。

町区内には、町立幼稚園が1園、認定こども園が1園、小学校3校、中学校1校、高等学校1校がある。これまで地区内の学校では、小・小連携事業や小・中連携事業で相互に職員が授業参観や情報交換を行ってきた。また、小学校間の児童交流や小学生の中学校訪問で小学生と中学生の交流活動を実施した。平成24・25年度には、宮崎中学校区4校で宮城県教育委員会より、小・中連携英語教育研究推進事業の指定を受け、児童・生徒の言語活動を中心とした授

業づくりをとおして、小・中の連携を深めてきた。

今後は異校種間において、より交流活動を広げ、さらに地域との連携を深めながら志教育の実践を進めていくことが望まれる。

## 5 宮崎中学校区の志教育の取組方針

- (1) 推進地区内において「志教育」について共通理解を図り、それぞれの学校における「志教育」を進める。
- (2) 目指す児童・生徒像を明確にし、各学校の生徒の実態に合わせた「志教育」を実践し、地区内の「志教育」の充実に努める。
- (3) それぞれの地区とのかかわりを大切にしながら、その地区のよさを生かした「志教育」の取組を推進する。

## 6 主な実施計画と今後の予定

年 月 日	実 施 内 容
平成28年	第1回宮城県志教育支援事業推進会議
4月28日	
5月19日	第1回北部管内大崎地区推進地区連絡協議会
5月19日	第1回宮崎中学校区志教育担当者会議
6月13日	第1回宮崎中学校区連絡協議会
6月13日	第2回宮崎中学校区志教育担当者会議
6月17日	小・小連携事業（中学年）
7月14日	第3回宮崎中学校区志教育担当者会議
8月4日	第2回宮城県志教育支援事業推進会議
8月4日	小・中連携事業「夏の学校」
8月4日	小・中連携事業全体会
8月4日	第4回宮崎中学校区志教育担当者会議
11月2日	中・高連携事業「先輩の話を聞く会」
11月18日	第5回宮崎中学校区志教育担当者会議
11月29日	小・小連携事業（高学年）
12月5日	第2回北部管内大崎地区推進地区連絡協議会
12月15日	第6回宮崎中学校区志教育担当者会議
平成29年	第2回宮崎中学校区連絡協議会
1月13日	
1月24日	事例発表会準備会・リハーサル
1月25日	事例発表会
2月9日	第2回宮城県志教育支援事業推進会議
2月10日	第3回北部管内大崎地区推進地区連絡協議会
2月17日	小・小連携事業（低学年）

テーマ 『ふるさと宮崎に学び 自分のよさに気づき 未来へ踏みだそう』

《目 標》

地区内の小・中学校が家庭及び地域とかがわる中で、望ましい社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えながら、よりよい生き方を進んで求めていく児童・生徒を育成する。

みやぎの志教育

- ・様々な人とのかかわりを通して自己理解と他者理解を深化させる。
- ・自らの在り方や生き方を主体的に探求させる。
- ・自分の果たすべき役割を認識させる。

加美町教育基本方針

- ・やさしさとたくましさを培う学校教育
- ・学びと協働の心に満ちた地域社会
- ・地域に根ざしたかおり高い芸術文化
- ・喜びや健康を実感する生涯スポーツ

各学校の取組	連携事業	地域とのかかわり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「石母田保全会」に学ぶ (宮崎小)</li> <li>・職業調べ (賀美石小)</li> <li>・1 / 2 成人式 (賀美石小)</li> <li>・陶芸教室 (旭小)</li> <li>・イチゴジャム・クッキー作り (旭小)</li> <li>・宮崎探検 (宮崎中)</li> <li>・加美町への提言 (宮崎中)</li> <li>・加美町産業研究 (中新田高)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・小連携 (3 小学校) (低学年・中学年・高学年)</li> <li>・小・中連携「夏の学校」</li> <li>・中・高連携「卒業生の話聞く会」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「獅子舞保存会」に学ぶ。(宮崎小)</li> <li>・鳥屋ヶ崎獅子舞 (賀美石小)</li> <li>・大黒舞 (賀美石小)</li> <li>・凌雲炎舞太鼓 (旭小)</li> <li>・職場体験 (宮崎中)</li> <li>・こんな加美町になったらいいな (宮崎中)</li> <li>・職場体験 (中新田高)</li> <li>・ボランティア活動 (中新田高)</li> </ul>

かかわる

もとめる

はたす

「志教育」3つの視点



## 8 宮崎地区小・中連携推進事業計画

### (1) ねらい

- ① 宮崎中学校区（宮崎中，宮崎小，旭小，賀美石小）4校での小・小連携や小・中連携を通して，学力向上や生徒指導，児童生徒の異年齢交流の面で推進を図りながら，児童生徒の健全育成を宮崎中学校区として推進していく。
- ② 小・小の交流学习の機会を設定し，同じ中学校に進学する児童に共通体験をもたせ，中学校へのスムーズな移行を図る。
- ③ 平成28年度加美町立宮崎中学校区志教育推進事業の活動にもつながる連携を図る。

### (2) 組織「宮崎中学校区 小・中連携推進事業連絡協議会」

役割	役職	人数	備考
(1) 全体責任者	校長	4名	
(2) マネージャー	教頭	4名	※マネージャーと推進委員が役員 ※兼務も可 ※役員会は内容を精査し参加できる人員で行う
(3) 推進委員	教務主任	4名	
	研究主任	4名	
	生徒指導主事・主任	4名	
	志教育推進委員	4名	
(4) 会員	宮崎中学校区 (宮崎中，旭小，宮崎小，賀美石小)	全教職員	
(5) 事務局	事務局は輪番とし，事務局校の校長・教頭を以下の役職に充てる。 ・宮崎地区小・中連携会長 … 校長 ・ “ ” 事務局長 … 教頭		
※事務局は輪番で行う。 ※事務局は，H27は宮崎小とし，以後輪番で担当する。 【27年度…宮崎小 28年度…宮崎中 29年度…賀美石小 30年度…旭小】			

### (3) H28年度の予定 ※必要があれば，全体会を行う。

	月 日	実施内容	開始時刻	会場
1	5月19日	・役員会① ※今年度の内容等の確認		宮崎中学校
2	6月 3日 6月17日	・担当者事前打合せ ・中学年児童交流会（小・小連携）	※3校時	宮崎小学校
3	8月 4日	・夏の学校（小・中連携） （小6の中学校模擬体験，部活動見学等） ・全体会 ・役員会② ※旧担任も交えて情報交換	9：00  午後	宮崎中学校
4	9月14日 9月29日	・宮崎中学校指導主事訪問 ・宮崎小指導主事訪問		各校 ”
5	11月 2日 11月 8日 11月29日	・旭小指導主事訪問 ・賀美石小指導主事訪問 ・高学年児童交流会（小・小連携）	※3校時	各校 ”
6	1月31日 2月17日	・担当者事前打合せ ・低学年児童交流会（小・小連携）	※3校時	賀美石小学校
7	2月中旬	・役員会③ ※次年度方向性の確認		宮崎中学校

※小・小連携の児童交流会は，3校時に統一（教科）

※指導主事訪問には，必ず何名かは参加すること

## 9 成果と課題

### (1) 成果

#### ① 各学校の取組について

- ・地域の学習に取り組むことで、自分たちの住む地域がより好きになり、地域への関心が高まった。
- ・児童同士の学び合いを通して、歴史や伝統を受け継ぐことの大切さやすばらしさを感じることができた。
- ・地域のよさを再発見し、自分たちの意見を出し合い、地域の方々と話し合いを重ねることで、多くの人に地域のよさを発信することができた。
- ・加美地区の事業所の理解を深め、産業を多角的にとらえることができた。
- ・地域活動において、地域の一員としての役割を果たすことができた。
- ・学んだことを基に、発表の場を自分たちで企画したり、6年生から5年生に伝統を伝えたりする活動につながることができた。

#### ② 連携事業について

- ・中学生には上級生としての自覚をもって小学生の世話をしようとする意識をもたせることができた。小学生にとっては中学校生活をより身近にイメージすることができた。
- ・職場体験では、働くことの喜びと大変さを感じ取ることができた。また、自分が将来就きたい仕事やいろいろな職種について考えることができた。
- ・卒業生からの話を聞くことで、これまでの自分たちの生活を見つめ直し、中学校生活への意欲が高められた。

### (2) 課題

#### ① 各学校の取組について

- ・地域学習のための人材バンクの整備や日程調整などに課題がある。
- ・地域・家庭への発信を充実させていきたい。
- ・新しい地域での活動の開拓が必要である。
- ・進路を考える土台作りとして、加美町産業研究の事前調査や事後の研究を深めさせる工夫が必要である。
- ・参加できるボランティア活動を増やし、多くの生徒が経験できる体制を作ることが必要である。
- ・学んだことを基に、発信する活動まで高めていくことが今後の課題である。

#### ② 連携事業について

- ・中学生がより主体となって活動をさせる必要がある。
- ・小学生との交流活動を工夫する必要がある。
- ・パネルディスカッションに中学生も参加し、意見の交流ができるようにしたい。

## Ⅱ 各校の志教育の実践の様子

1 宮崎小学校

2 賀美石小学校

3 旭小学校

4 宮崎中学校

5 中新田高等学校

学校名	加美町立宮崎小学校	学年・教科等	3～6年総合的な学習の時間
〈活動名〉宮崎の自然・伝統・歴史を学ぶ		〈実施日〉	4月～3月
<p>〈志教育の視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮崎の自然や歴史を守る「石母田保全会」や伝統を守る「獅子舞保存会」の方々との交流を通して、宮崎の自然、歴史、伝統について学び、「ふるさと宮崎」を知る。(かかわる)</li> <li>活動に取り組む人たちの思いや願いを知り、自分たちも引き継いでいこうとする心情を高める。(もとめる)</li> <li>学んだことを発表する機会を自分たちでも計画し、主体的に発信していく活動に取り組む。(はたす)</li> </ul>			
<p>〈実践の概要〉</p> <p>1 「石母田保全会」に学ぶ。【4～12月】</p> <p>①稲作体験(田植え～稲刈り)【春,秋 6年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手作業による稲作(田植え～稲刈り)</li> <li>環境保全にもつながる投げ植えによる田植え</li> <li>黒曜石を使った穂首刈り</li> </ul> <p>②ビオトープでの環境保全活動の紹介【春,秋 6年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メダカ,ホタル,鉄魚の繁殖活動</li> <li>ビオトープに棲む生物</li> </ul> <p>③郷土を開いた人々【11月 4年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>蟬堰の見学</li> <li>郷土の史跡巡り</li> </ul> <p>2 「獅子舞保存会」に学ぶ。【4～3月 3,5,6年】※実質前年度1月開始</p> <p>①獅子舞を受け継ぐ・歴史を学ぶ【1月～3月 3,5年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保存会の方に学ぶ(5年:実技, 3年:インタビュー)</li> <li>6年生に学ぶ(5年:実技)</li> </ul> <p>②地域に披露する【4～10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度3回(熊野神社春まつり,さなぶり大会,ナイトバザール)</li> </ul> <p>③自分たちで計画する【11月】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度1回(デイサービスの利用者との交流学习)</li> </ul> <p>④獅子舞を引き継ぐ【1月 6年生から5年生へ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>獅子舞引継ぎ式</li> <li>練習会</li> <li>6年生を送る会での初演舞</li> </ul> <p>3 これまでの活動を振り返る【12月 6年】</p> <p>①「石母田保全会」「獅子舞保存会」との活動から学んだこと 〔児童の感想(6年生)〕</p> <p>○ 私達宮崎小学校の6年生には、「宮崎子ども獅子舞」が受け継がれてきました。私の父が初代で29年前から始まりました。父が獅子頭をやっていたこともあり、私も父のように踊りたいと思い、獅子頭を担当させてもらいました。〈中略〉「今までずっと大切に受け継がれてきた伝統を守るのは、私達だ」という思いを胸に、練習を頑張りました。時には、頭を持つ方の手がこすれて赤くなってしまうことがありました。けれど、その練習があったからこそ、町の行事に参加し、たくさんの人にほめていただくこと</p>			
		 <p>【田植え体験】</p>	
		 <p>【苗の投げ植え体験】</p>	
		 <p>【獅子舞練習 保存会の方に学ぶ】</p>	
		 <p>【獅子舞練習 6年生に学ぶ】</p>	

が多くなりました。特に、デイサービス利用者との交流会で披露した時には、みんな笑顔で喜んでくれ、あらためてこの獅子舞は、地域の伝統であるということを実感しました。私は将来の夢が決まらず、ずっと迷っていたのですが、デイサービスを利用しているおじいさん、おばあさんが私達の踊りで笑顔になってくれたところを見て、「私は、人々の幸せを見ることができると仕事に就きたい」と思い、将来の夢をウェディングプランナーに決めることができました。私達の小学校での獅子舞はもうすぐ終わりです。卒業まで5年生にこの獅子舞の伝統をしっかりと伝えていきます。そして、私も獅子舞の経験を生かして、自分の夢に向かって、あきらめず、「人を笑顔にしたい」という気持ちを忘れず、頑張っていきたいです。



【獅子舞演舞(熊野神社春まつり)】



【獅子舞演舞(宮崎ナイトパザール)】

- 私は将来、生き物博士になるのが夢です。クラスでも、生き物係をしていることが多いです。だから私は、「石母田ふる里保全会」の方と一緒にやる活動を、いつもとても楽しみにしていました。春には、手作業による稲作をしました。また、生き物がすみやすい環境を作るために、投げ植えによる田植えもしました。秋には、黒曜石を使って穂首刈りの体験もしました。実際にやってみると大変でしたが、便利な道具がない時代の人の気持ちがよく分かりました。私が一番興味があったビオトープで守っている生き物の観察もさせていただきました。ビオトープによる環境保全活動でメダカやホタルの繁殖活動をしていることも知り、「環境保全」の大切さに気付くことができました。〈中略〉私は、これからも町の環境を守るための活動に参加したり、石母田ふる里保全会の活動のお手伝いをしたりしたいと考えています。そして、将来の夢である生き物博士になり、子ども達に生き物の生態や特徴、環境を守ることの大切さについて伝えていきたいです。



【ビオトープ活動開講】



【ビオトープの生物観察】

## 〈成果と課題〉

### 1 成果

- 子ども獅子舞の活動については、学んだことを基に、発表の場を自分たちで企画したり、保存会から学ぶだけでなく、6年生から5年生へ伝統を伝えたりする活動にも繋ぐことができた。
- 獅子舞保存会や石母田保全会など、教えていただいた方への感謝の会も自分たちで企画し、感謝の気持ちを伝える場も設定することができた。

### 2 課題

- ビオトープ活動については、学んだことを基に発信する活動まで高めていくことが今後の課題である。



【ふるさと探訪(蟬堰見学)】



学校名	加美町立賀美石小学校	学年・教科等	3～6年総合的な学習の時間
<b>〈活動名〉</b> 賀美石小学校に学び、伝えよう 賀美石のよさ	<b>〈実施日〉</b> 4月～3月		
<b>〈志教育の視点〉</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>賀美石の自然や歴史を学び、自分たちの暮らす賀美石のよさを知り、それらを受け継ぎ、守ってきた人々とのふれ合い、交流を通して賀美石に生まれ育っていることの喜びを感じさせる。(かかわる)</li> <li>農業体験「畑作り」「稲作」や歴史学習「東山官衙遺跡」、伝統の踊り「鳥屋ヶ崎獅子舞」「大黒舞」に学びながら、自分たちも伝統を受け継いでいこうという思いをもつ。(もとめる)</li> <li>自分たちの学びを多くの人に伝えようという意欲をもち、自ら積極的に発表する活動に取り組む。(はたす)</li> </ul>			
<b>〈実践の概要〉</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>「鳥屋ヶ崎獅子舞」を受け継ぐ。【年間を通して】             <ol style="list-style-type: none"> <li>鳥屋ヶ崎獅子舞の踊りを引き継ぐ。(6年生から5年生へ)                 <ul style="list-style-type: none"> <li>6年生から獅子舞の踊り方を引き継ぐ。(1月)</li> <li>獅子舞の伝統を調べる。保存会の方の話聞く。(2・3月)</li> <li>6年生を送る会で発表し、引継ぎ会を行う。</li> </ul> </li> <li>地域・学校で披露する。                 <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥屋ヶ崎八幡神社例祭で氏子の皆さんに披露する。(4月)</li> <li>6年生を送る会1年生を迎える会、さなぶり大会、賀小文化祭、賀美石秋祭りで披露する。</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>「大黒舞」を受け継ぐ。【9月】(3, 4年生)             <ol style="list-style-type: none"> <li>大黒舞の踊りを引き継ぐ。上学年とともに学ぶ。                 <ul style="list-style-type: none"> <li>4年生から大黒舞の踊り方を引き継ぐ。</li> <li>大黒舞の由来などについて保存会の方から話を聞く。</li> <li>自分たちで調べてまとめ、発表する。</li> </ul> </li> <li>地域・学校で披露する。                 <ul style="list-style-type: none"> <li>賀小文化祭、賀美石秋祭りで披露する。</li> </ul> </li> <li>大黒舞保存会の方から由来や伝承についてのお話を聞くとともに保存会の方の踊りを見せていただく。</li> </ol> </li> <li>「東山官衙遺跡」賀美石の歴史から学ぶ。【12月～3月】(6年生)             <ol style="list-style-type: none"> <li>遺跡の上に建つ学校としての歴史と伝統を学ぶ。                 <ul style="list-style-type: none"> <li>東山官衙遺跡、壇の越遺跡について発掘に携わった方からお話を聞く。</li> <li>東山官衙遺跡、壇の越遺跡の見学。</li> <li>発掘された出土品に直接触れる。</li> </ul> </li> <li>学んだことをまとめ発表する。                 <ul style="list-style-type: none"> <li>校内での地域の方をお呼びして発表後、宮崎支所、賀美石公民館に掲示し地域の方にも発信する。</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>「稲作」「畑作り」から農業の大切さや農業の大変さを学ぶ。             <ol style="list-style-type: none"> <li>稲作体験、畑作り(5年生)</li> </ol> </li> </ol>			



【鳥屋ヶ崎神社での奉納】



【大黒舞保存会の方と】



【大黒舞を披露する】



【東山官衙遺跡を学ぶ】



- ・手作業による稲作（田植え～脱穀）
- ・餅米を使った給食での感謝の会実施。（全校児童）

## ②農家見学（3年生）

- ・大豆農家を尋ね、米作りとのちがいを学ぶ。



【大豆農家の見学】

## 5 地域を流れる田川とそれに関わる自然や環境を守る人々から、自分たちの命と水について学ぶ。【通年】（4年）

- 田川の水質や上流・中流・下流それぞれの違い、漆沢ダム、蟬堰、麓山浄水場の見学を通して学び、学んだことを学級や他学年に発表する。



【田川の調査】

## 6 自分の好きなことから将来を見つめる。【3学期】（6年）

- これまでの自分を見つめ、自分の好きなこと（興味のあること）から繋がる職業について調べる。

- ・調べたことを表にまとめ、保護者や友達に発表する。

## 7 「楽天未来塾」プロ野球選手から学ぶ。【随時】（全学年）

- プロで活躍した方のこれまでの生き方を聞き、夢を叶えるために今できることや「夢」「目標」をもつ大切さについて考える。



【自分の将来を見つめる】

## 8 1/2成人式の活動を通して感謝の心と今後の目標や夢をもつ。【2月】（4年）

- これまで育ててくれた家族への感謝と将来の夢について発表する。

### 〔児童の感想〕

- 鳥屋ヶ崎獅子舞は、とても難しくてできるかどうか心配だったけれど、保存会の方や6年生が親切に教えてくれたので、自信をもって発表できるようになりました。自分もしっかりとこの伝統を受け継げるように頑張りたいと思います。
- 大黒舞保存会の方の踊りを見せていただきました。ぼくたちは、扇子の動きや打ち出の小槌の振り方がすごいなあと思いました。ぼくももっと上手に踊りたいと思います。
- 賀美石小学校が遺跡の上に建っていることや国指定の遺跡だということが分かり、自分の住むこの地域のことがもっと好きになりました。これからも地域のことをよく学び、調べていきたと思います。
- 田川の学習を通して、ダムの働きや水質などを学び、いろいろな人がいろいろな所で一生懸命に働いていることが分かりました。これからは感謝して水を使いたいと思いました。

### 〈成果と課題〉

## 1 成果

- ・地域の学習に丁寧に取り組むことで、児童が自分の町や地域を好きになり、自信をもって発表できるようになった。地域を知るためには、地域の方々の協力が不可欠であり、専門家（保存会・農家など）から学ぶことのよさを実感させることができた。
- ・児童同士の学び合いを大切にしたい取組を意図的に設けることで、歴史や伝統を受け継ぐことの大切さやすばらしさを感じることができた。
- ・様々な活動を通して、調べたことを積極的に発表しようとする意欲が高まった。

## 2 課題

- ・地域学習のための人材発掘（人材バンクの整備）や日程調整などに課題がある。
- ・学校で取り組んでいる志教育の実践は、大変素晴らしいものだと自信をもって言える。しかし、これらの取組が地域や家庭に十分に伝わっていない。今後どのように発信し、地域・家庭とともに連携を深めより充実した取組にしていくのかが課題である。

学校名	加美町立旭小学校	学年・教科等	1～6年 生活科・総合的な学習の時間
活動名	旭のふるさとから学ぼう	実施日	4月～3月

### 〈志教育の視点〉

- ・ 陶芸の里・旭の文化や歴史を、様々な人とのかかわりを通して学び、それらを行っている人達の思いを知り、みんなで旭の伝統を大切にしていこうとする気持ちをもたせる。(かかわる)
- ・ 「陶芸・切込焼」「凌雲炎舞太鼓」を学び体験することによって、地域の一員としての自覚をもてるようにするとともに、伝統を引き継いでいこうとする。(もとめる)
- ・ 陶芸や太鼓にかける人達の思いに気付くことで、今、自分にできることや、地域の人や地域のために役立つとういう気持ちを育む。(はたす)

### 〈実践の概要〉

#### 1 陶芸教室での作品作り。(全学年・5月～11月)

- ① 「切込焼」を調べる。
  - ・ 陶芸の三浦陶房で取材を行い、切込焼や陶芸について知る。
  - ・ 調べて分かったことを新聞にまとめ発表する。
- ② 作品作り1 (成形活動と乾燥) (6月)
  - ・ 陶芸家の三浦さんの指導の下、全学年で成形活動を行う。
  - ・ 成形した作品を約2ヶ月乾燥し素焼きの準備をする。
- ③ 作品作り2 (素焼き・窯入れと窯出し)
  - ・ 陶芸に詳しい板垣さんから素焼きについて学び、窯入れ作業を行う。焼き上がった作品の窯出しを行う。(9月)
- ④ 作品作り3 (釉薬がけ)
  - ・ 三浦さんから釉薬(うわぐすり)について学ぶ。(10月)
  - ・ 焼き上がりをイメージしながら、作品に釉薬をかけたたり塗ったりする。
- ⑤ 作品作り4 (本焼き・窯入れと窯出し)
  - ・ 板垣さんに本焼きについて学び、最後の行程である本焼きに挑戦する。
  - ・ 窯が冷めた1週間後、窯出しを行い自分の作品と対面する。
- ⑥ 体験から学んだことを発表する。
  - ・ 調べて分かったことを宮崎地区小学校交流会や学習参観で発表する。
  - ・ 一人一人の作品を宮崎地区町民文化祭で展示発表する。



三浦陶房での取材活動



素焼き(窯入れ)



釉薬(うわぐすり)



本焼き(窯出し)



## 2 「凌雲炎舞太鼓」の伝承（5，6年・9月～10月）

- ・ 凌雲炎舞太鼓の会のみなさんに、演奏の仕方を学ぶ。
- ・ 学芸会で地域の方に演奏を披露する。加美郡音楽祭で発表する。



凌雲炎舞太鼓の練習の様子

## 3 イチゴジャム・クッキー作り

- ・ 畑で育てたイチゴを使ってジャム作りを行い、学校での教育活動に関わっていただいた方々に感謝の気持ちを込めて配付する。

（7月）

- ・ 地域全体に呼びかける学芸会で、見に来ていただいた方に、学校での活動を紹介するとともに、感謝を込めて学校の畑で収穫した小麦を使って作ったクッキーを配り味わってもらう。（10月）



イチゴジャムづくり

## 〈成果と課題〉

### 1 成果

- ・ これまで、陶芸の里と呼ばれる地域に住みながら、陶芸へ意識が向かないまま過ごしてきた子が多かった。今回、切込焼について陶芸にかかわる人から直接話を聞き、陶芸に対する深い思いを感じ取り、自分たちも伝えていこうとする気持ちをもつことができた。
- ・ 凌雲炎舞太鼓を教えてもらうに当たって、指導してくださる方の熱意を感じ取るとともに、演奏への思いを受けとめ、教えに恥じない演奏をしようと意欲的に練習に取り組み発表することができた。

### 2 課題

- ・ 新たな地域での活動の開拓が望まれる。地域ぐるみでの取組を進めながら、受け入れてくださる方々の確保及びリストの作成、関係諸機関間の調整や実施時期の調整等を行うなど、志の教育の場をより一層効果的・効率的に推進していくことを考えていかなければならない。



郡音楽祭での発表の様子

学校名	加美町立宮崎中学校	学年・教科等	全学年
活動名	地域を知る 職場訪問・職場体験	実施日	4月～10月

### 〈志教育の視点〉

- ・まわりの人の個性や立場を尊重し、他の人の意見を認め、協力的な関係を築こうとする意欲を養う。  
(かかわる)
- ・将来の職業と学習とのかかわりを理解させ、学習や体験活動に積極的に取り組ませる。(もとめる)
- ・社会における自らの役割や生き方を考え、目標を立てて計画的に取り組む態度を育てる。(はたす)

### 〈実践の概要〉

#### 1 地域を知る

##### (1) 「宮崎探検」(5月 1年)

- ・宮崎の「自然・環境」「芸能・生活」をテーマにグループ毎に地域探検を行った。グループ毎に調査・体験活動を実施し、模造紙にまとめ発表した。

##### 〈各班のテーマ〉

- ①牛の一日
- ②宮崎の食べ物屋さんを調べよう
- ③田川と鳴瀬川の違い
- ④宮崎の「食」について調べよう！

##### (2) 「こんな加美町になったらいいな」

(6月～10月 1年)

- ・地域のお菓子屋さんとオリジナル菓子の共同開発  
(越後屋, 松泉堂, 門真菓子店)

##### 〈オリジナル菓子〉

さつまいもマドレーヌ, 栗マドレーヌ, ミルクプリン  
カボチャプリン, くるみロック, 枝豆・抹茶がん月

- ・宮崎のパワースポットマップ作り
- ・オリジナルキャラクター制作
- ・ポスター制作
- ・学習発表会で活動の報告
- ・加美マルシェでのお菓子の販売

##### (3) 「加美町への提言」(11月 3年)

- ・社会科の公民分野の中で加美町の課題を考え、提言した。

##### 〈主な提言〉

- ・加美町をホームページや広報でアピールし、少子高齢化の解消。
- ・雇用の場を増やし、人口減少解消。

1年「宮崎探検」



2年「職場訪問 MJQ」



2年「職場体験」



- ・大型ショッピングパークやテーマパークを建て、若者の人口流出を防ぐ。
- ・使わなくなった建物を利用し、病院数を増やす。

## 2 職場訪問・職場体験

### (1) 「修学旅行」(5月 3年)

- ・自主研修の中で、各班ごとに職場訪問をした。

#### 〈主な訪問先〉

パナソニックセンター，森永製菓鶴見工場，篠原まるよし風鈴，和菓子埼玉屋小梅

### (2) 「仙台自主研修」(5月 2年)

- ・各班ごとに職場訪問

#### 〈主な訪問先〉

八木山動物公園，コボスタジアム，東北学院大学，MJQ，地下鉄仙台駅

### (3) 「職業講話」(9月 2年)

- ・職場体験の事前学習としてハローワークに講師を依頼し，職業講話を聞いた。職業を選択するときのポイントと中学校生活で大切なことについて，講師の先生から話を聞いた。

### (4) 「職場体験」(10月 2年)

- ・加美郡・大崎市内の15事業所で職場体験
- ・お礼状作成，発送。
- ・学習発表会でパワーポイントによる発表。

## 〈成果と課題〉

### 【成果】

「地域を知る」では地域の方々と話し合いを重ねながら，オリジナルのお菓子を開発し，多くの人に発信することで，宮崎のよさを再発見することができた。「職場訪問・職場体験」では，様々な職種を知ることで，勤労に対する理解と職業観を養うことができた。

### 【課題】

3年生の公民分野での「加美町への提言」では，生徒一人一人が加美町の課題についてそれぞれの対策を考え，発表した。今後は授業だけの発表にとどまらず，提言を発信する場を設定していきたい。2年生の「職場体験」では，生徒の進路希望に合わせた職場を新たに探していく必要がある。

学校名	宮城県中新田高等学校	学年・教科等	キャリアプラン他
〈活動名〉 加美町産業研究（1年）・職場体験学習（2年）・ボランティア活動			〈実施日〉 10月（1年）・7月（2年）
<p>〈志教育の視点〉</p> <p>（1） 加美町産業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査・研究を通して、課題発見や課題解決の方法を学ぶ。（かかわる・もとめる）</li> <li>・ フィールドワーク後、課題解決の方策や自らの役割を考える。（はたす）</li> </ul> <p>（2） 職場体験学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 働くことの尊さを実感させ、勤労観、職業観を醸成する。（はたす・もとめる）</li> <li>・ 社会人として必要なマナーや会話能力を身につける。（かかわる・もとめる）</li> </ul> <p>（3） ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会活動への理解を深め、実践力と自己有用感を高める。（かかわる・はたす）</li> </ul>			

<p>〈実践の概要〉</p> <p>1 具体的な活動の流れ</p> <p>（1） 加美町産業研究（1年）：趣旨説明・課題研究の方法・課題研究・加美町の取り組み・マナー講習・事前研究</p> <p>（2） 職場体験学習（2年）：趣旨説明・訪問企業調査・マナー講習・企業へのアポイント・事前打ち合わせ・計画書作成</p> <p>（3） ボランティア活動：各団体からの依頼・ボランティア参加生徒の募集・事前打ち合わせ・ボランティア活動</p> <p>2 実践</p> <p>（1） 加美町産業研究（1年）：5名程度の班に分かれ、商業・工業・教育・福祉・農業・行政の分野に分かれ事前に質問事項を送付し、当日取材をしながら内容を深める。訪問先は40事業所。</p> <p>（2） 職場体験学習（2年）：実際に働く現場を体験することで「働くこと」への理解を深める。実施は夏休み期間中の3日間で行う。体験先は42事業所。</p> <p>（3） ボランティア活動：初午祭り（ゴミ分別・募金活動）・本の読み聞かせ（保育所・小学校）・24時間テレビ募金・夏の寺子屋事業・鍋祭り（ゴミ分別・鍋販売・商品企画）・加美町にぎわいづくり委員会 等への参加</p> <p>3 事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 礼状作成及び送付・報告書の作成及び編集・課題まとめ・発表会</li> </ul> <p>〈成果と課題〉</p> <p>1 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加美地区の事業所の理解を深め、産業を多角的に捉えることができた。（1年）</li> <li>・ 「働くこと」や「社会人」としての常識や姿勢について理解を深めた。（2年）</li> <li>・ 地域活動において、地域の一員として役割を果たすことで地域に貢献できた。</li> </ul> <p>2 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自らの進路を考える土台作りとして、加美町産業研究の事前調査や事後の研究を深めさせる工夫が必要である。（1年）</li> <li>・ 自らの進路希望をより具体化させ、それに関連した企業等での職場体験学習ができる体制を整えられると、より主体的な姿勢での参加と効果が期待できる。（2年）</li> <li>・ 参加できるボランティア活動を増やし多くの生徒が経験できる体制作りをしたい。</li> </ul>
--

### Ⅲ 志教育連携事業の実践

1 小・小連携

2 小・中連携

3 中・高連携



小・小連携の様子



小・中連携の様子



中・高連携の様子



学校名	加美町立宮崎小・賀美石小・旭小	学年・教科等	全学年(各学年部毎・年1回)	
<b>〈活動名〉</b> 小・小交流会	<b>〈実施日〉</b> 中学年： 6月17日(金)宮崎小 高学年： 11月29日(火)賀美石小 低学年： 2月17日(金)旭小			
<b>〈志教育の視点〉</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ宮崎地区に住む同年代の児童同士で交流させることにより、仲間意識や中学校入学への期待感をもたせる。(かかわる)</li> <li>・ 各校ごとに地区の特色について調べたことや、志教育に関わる活動を紹介し合うことで、宮崎地区のよさを確認し合い、ふるさと宮崎への理解を深める。(かかわる)</li> </ul>				
<b>〈実践の背景〉</b> <p>宮崎地区の三小学校の児童は、ほとんどが地区内にある2つの幼稚園(みやざき園、賀美石幼稚園)から入学すること、そしてスポーツ少年団も合同のチームであることが多い。そのため、学校の枠を越えたつながりをもっている児童や保護者も多く、学年PTA行事等も合同で行う学年が多い。また、教職員に関しても、平成24年度からの県指定の小・中連携英語教育推進事業への取組を通して、相互授業参観や連携を意識した年間指導計画の作成、教材等の共有などの活動を行ってきている。</p> <p>これらのことから、宮崎中学校区においては、小・小、小・中連携の基礎は、ある程度確立していると言える。</p>				
<b>〈実践の概要〉</b>				
<b>1 「中学年交流会」【6月17日 会場：宮崎小】</b>				
①交流活動Ⅰ ○合同の6グループに分かれ、自己紹介～準備運動 ②交流活動Ⅱ ○グループ対抗ピラミッドじゃんけん ○グループ対抗長縄跳び ③交流活動Ⅲ ○感想発表				
<b>2 「高学年交流会」【11月29日 会場：賀美石小】</b>				
①交流活動(6年生による各校の学校や地域のよさ発表会)			<b>【中学年：自己紹介】</b>	
○宮崎小学校の発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統芸能「宮崎獅子舞」の紹介・演舞</li> <li>・ 学習発表会で取り組んだ「滝廉太郎」の紹介、「荒城の月」合唱</li> </ul> ○旭小学校の発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統工芸「切込焼き」の紹介</li> <li>・ 自分たちで作った焼き物紹介</li> <li>・ 「凌雲炎舞太鼓」の紹介・演舞(ビデオ)</li> </ul> ○賀美石小学校の発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「や・か・た(※)」の取組紹介               <ul style="list-style-type: none"> <li>※「や」→やさしく 「か」→かしこく 「た」→たくましく</li> </ul> </li> <li>・ 伝統芸能「鳥屋ヶ崎獅子舞」演舞</li> </ul> ②感想発表(5年生から)				
<b>【児童の感想】(高学年交流会後の作文より)</b>				
○ ぼくは、他の学校の発表を見てすごく感動しました。宮崎小も賀美石小も獅子舞の発表でした。笛や太鼓の音に合わせて動く獅子がすばらしかったです。ぼくたちは凌雲炎舞太鼓の発表をしましたが、ビデオや写真での紹介になってしまいました。大太鼓や宮太鼓、それに締太鼓やぼくが担当している桶太				

鼓。今までみんなですごく練習をしてきたので、できれば今日も実演したかったです。きっと他の学校のみなさんもたくさん練習したのだと思います。各校の発表が見られて本当によかったです。(旭小6年)

- 私は遺跡の発表と獅子舞を披露しました。遺跡の発表では、資料をもとにして文章を考え、本番では大きな声で発表し、賀美石小学校のよさをみんなに伝える事ができました。獅子舞では、笛と太鼓の音にあわせて獅子が生きているように顔などを動かしました。こうして、みんなの力を合わせて賀美石小学校の伝統の獅子舞も伝えることができました。三校合同交流会をして、それぞれの学校のよさを伝え合えることができ、とてもよい経験になりました。(賀美石小6年)

- 三校で行う合同交流会は、それぞれの地域の良さを知る良い機会となり「凌雲炎舞太鼓」も本当に上手で「すごい！」と思いました。賀美石小学校の皆さんの「鳥屋ヶ崎獅子舞」は、私達が練習している「宮崎獅子舞」とリズムや舞い方が違って驚きました。各校の発表だけでなく、休憩時間に他校の人と話ができたことも良かったです。中学校に行くのがまた一つ楽しみになりました。(宮崎小6年)

- 小小連携で3つの学校について学習しました。宮小では、獅子舞の体の線が五色で、それぞれの色に意味があることを知りました。宮小の獅子舞が賀美石小とは違う踊りや獅子の動きで迫力もあり、見応えがありました。旭小は、切込焼について、全校が取り組んでいることや「らっきょうとっくり」が有名なことを知りました。凌雲炎舞太鼓では、大きい太鼓を太いばちでたたいたり、太鼓の両面をたたく技術にびっくりしました。練習も大変だったと感じました。賀美石小では、獅子舞や遺跡について発表しましたが、来年は、自分たちが発表するので頑張りたいと思います。今日の学習を生かし、中学校に行ってから会う人もいるので、出身小学校関係なく仲良くできればいいなと思いました。(賀美石小5年)



【高学年(宮小：獅子舞について)】



【高学年(宮小：獅子舞演舞)】



【高学年(旭小：自作陶芸作品)】

## 〈成果と課題〉

### 1 成果

- ・ 中学年での交流会では、「お互いを知る」をテーマに、ゲームを中心に活動を行った。児童同士は、顔見知りも多く、グループ内で打ち解けるのに余り時間は掛からず、作戦タイムでの話合いもスムーズで、協力することができた。
- ・ 高学年の交流会では、「学校や地域のよさを伝え合う」をテーマに、各校の取組を6年生が発表し、5年生が聞く発表会形式での活動を行った。同じ地区内でも、他校の発表は新鮮で、これまで知らなかった「宮崎」を知ることができ、児童にとって「ふるさと宮崎」の新たなよさを見付け合う機会となった。



【高学年(旭小：プレゼン紹介)】



【高学年(賀小：やかた活動紹介)】

### 2 課題

- ・ 中学年の活動は、このような形での三校交流活動の初回だった。そのため、レクリエーション的な活動を中心の交流としたが、自己紹介を工夫したり、自分のこと(夢や長所など)をもう少し詳しく発表したりする場を設定することにより、より関わり合いの深い交流とすることができたと思われる。
- ・ 高学年の活動では、今回は時間の制約もあり、発表を聞き合うことがメインの活動であったが、それぞれの学校の発表について児童同士の意見交流の場を設定することができれば、より深まりのある交流とすることができたと思われる。
- ・ 今年度は計画段階では担当者同士の事前の打ち合わせを設定していたが、日程調整等の難しさもあり、事前の打ち合わせは行えなかった。そのため、会場校の担当者に負担が偏ってしまった。



【高学年(賀小：獅子舞演舞)】

以上の成果と課題を踏まえ、来年度の実践に生かしていきたい。

学校名	加美町立宮崎中学校	学年・教科等	全校生徒・学校行事/総合的な学習
活動名	夏の学校・職場体験	実施日	夏休み・7月～10月

〈志教育の視点〉

- ・中学生が学校の案内をしたり，行事の説明をしたりすることで，小学生の立場に立った行動を工夫しようとする。（かかわる）
- ・小学生に，中学校での授業や部活動を体験させることで，中学校生活の見通しを持たせる。（もとめる）
- ・中学生が，来年入学してくる児童との交流を通して，上級学年としての自覚を持つ。（はたす）

〈実践の概要〉

1 夏の学校【8月】

①中学校の体験授業（理科）

ドライアイスを使った実験を通して，中学校の授業内容である「状態変化」を学習した。仮説を立て，実験を通して検証する楽しさを知った。

②行事の説明

生徒会総務の生徒たちが，パワーポイントを使い，学校行事や1年間の流れを説明した。

③部活動の交流

各部活動でクイズを準備し，小学生に部活動の雰囲気や上級生の様子を伝えた。校舎内を移動しながら上級生と触れ合うことができた。

④給食

小学生が自分たちで中学校の給食の準備をし，中学校で出される給食を実際に食べた。

【理科の授業の様子】



【中学校からの話】



【生徒会からの行事の説明】



【中学校の給食も食べました】



[参加した小学生の感想]

- 部活動見学が楽しかった。もっと時間をかけて部活動を体験してみたいです。
  - ほかの教科の授業や今日体験しなかった部活動を体験してみたいと思いました。
  - 教科や部活動がんばっていきたくと思った。
  - 最初は，他の学校の人となかなか話せなかったけど，いろんなところで一緒に活動して話のできたのでよかった。
  - 今日は理科の授業を受けたけど，理科以外の教科もやってみたいです。
  - 部活動見学でバスケットボール部に行って，チームで協力してとてもたいへんだったけど楽しかったです。
  - 校舎が広くて迷ってしまったけど楽しかった。
  - 中学校の運動会を体験したい。
  - 野球部でバッティングを体験したら，少年野球のバットより中学生のバットの方が重かったし，振りにくかった。
  - 委員会や生徒会をしてみたい。
- 他の小学校の人と今まであまり話したことがなくて，慣れるまで少し大変でしたが，優しい人たちばかりで，楽しく交流することができたのでよかったです。



## 2 職場体験学習

【計画 7月～ 実施10月】

### ① 授業の補助

実際の授業に入り、小学生の学習の手伝いをしたり、教員の補助についたりした。実際、児童の前に出て話をするのは緊張したようだが、堂々と話すことができていた。

### ② 給食

児童と一緒に給食の準備、食事、片付けを行い、児童との交流を深めた。

### ③ 校舎内の整備

担当してくださった先生方と一緒に、校舎内の掲示物の貼り替えを行い、学校の仕事は授業だけではないことを感じる事ができた。

### [職場体験学習の感想]

○ 職場体験学習で、学習発表会の指導を体験しました。児童の長所を伸ばすためには、褒めることが大切だということ学びました。

○ 児童たちの目線で物事を見ることの大切さを学びました。そうすることで児童の気持ちを理解できるし、困っていることに気づいてあげられるということが分かりました。

○ 誰かからの指示を待つのではなく、自分で考えて、そのとき何が必要かを判断することが大切なんだと言うことを教えてもらいました。

【学習発表会の練習に参加】



【給食のお手伝いもしました】



【小学生の頃を思い出しながら】



【掲示物の貼り替え】



## 3 成果と課題

〈成果〉

・夏の学校を実施することで、中学生には、上級生としての自覚を持って小学生の世話をしようとする意識を持たせることができた。また、小学生は、中学校の雰囲気を知ったり、上級生を身近な存在に感じることで、中学校生活をイメージすることができた。

・職場体験学習を通しては、働くことの楽しさとたいへんさを感じることができ、自分の将来就きたい仕事やいろいろな職種について考えることができた。また、小学生の様子を見ることで、改めて自分の中学校生活を振り返ることができた。

〈課題〉

・夏の学校については、小学生と中学生の交流の場としてはいいが、中学生が主体となって動かすには限界があり、教員の負担が大きい。また、内容についてもマンネリ化しているので、今後、内容について工夫が必要と思われる。

・職場体験学習については、安全面や生徒指導面で配慮が必要なため、生徒が体験できる活動が限られてしまう。

学校名	加美町立宮崎中学校	学年・教科等	全学年
活動名	中高連携「卒業生のお話を聞く会」	実施日	平成28年11月2日（金）

### 〈志教育の視点〉

- ・宮崎中学校を卒業した先輩たちの話を聞くことで、進路に対する意識を高める。（もとめる）
- ・先輩たちが中学校生活で学んだことをとおして、目標を明確にし充実した中学校生活を送る。（もとめる）

### 〈実践の概要〉

宮崎中学校卒業の高校生3人を講師として、全校生徒を対象にパネルディスカッション形式で会を進めた。

パネルディスカッションの内容は、

- ・現在の高校生活について
  - ・高校生として卒業後の進路について考えること
  - ・中学校生活で学んだこと
  - ・中学生へのアドバイス
- などであった。

### 【パネルディスカッションの様子】



### ○生徒の感想

- ・卒業生のお話を聞いて、高校では自分から進んであいさつすることや人間関係がどのくらい大切かがわかりました。部活面では努力すること、あきらめないこと、礼儀・感謝をしっかりとすることなどがわかりました。
- ・今日の卒業生のお話を聞き、高校生活に対する意欲が高められました。また、高校生活についての説明もあったので、詳しく知ることができました。高校での生活を充実させるためにも、今、自分にできることをがんばっていきたいと思います。

### 〈成果と課題〉

身近な卒業生からの話を聞くことで、これまでの自分たちの生活を見つめ直し、中学校生活の意欲が高められたようだ。今後の課題として、パネルディスカッションに中学生も参加し、意見の交流ができるようにしたい。



平成29年1月25日(水)発行